

1 取組の重点

- (1) 児童一人一人がいじめを自分のこととして考え、いじめ防止に向けた活動に取り組もうとする自主的・実践的な態度を育てる。
- (2) 家庭や地域社会と連携・協働していじめ防止対策に取り組む。

2 具体的な取組

(1) 児童運営委員会を中心とした、主体的ないじめ防止に関する取組

①いじめ防止理解の寸劇（第1回いじめ防止集会）

学校生活の「どの場面の、どんな言動がいじめ防止につながるのか？」を児童に具体的に理解させる機会を設けた。今年度も児童会運営委員で考えを出し合い、寸劇の台本を考えて、児童集会において、いじめ防止理解を図るための寸劇を行った。友だちの良いところを見つけ、伝えることの大切さを理解してもらった後に、第1回の「いいね運動」の説明を行った。



【いじめ防止理解の寸劇をする児童運営委員】

②いじめ防止につなげるあいさつ運動

児童運営委員の「笑顔で言葉の元気をもらうことで、元気のリレーができるはず。」などの考えから、毎週水曜日に、いじめ防止の旗をもち、登校してくる全校児童に対し一人ずつハイタッチしながら元気になる言葉がけを行った。また、ハイタッチするあいさつ運動付近では、校長・生徒指導担当によるあいさつ指導（止まって、目を見て、元気にあいさつ）が毎日に行われている。さらに、第二中学校との小中合同あいさつ運動も、継続して実施している。毎月第二木曜日に、四小出身の中学生と生徒指導担当が小学校に来校してくれる。笑顔での声



【あいさつ運動でハイタッチする児童】

と声のかけ合いやハイタッチでの手と手の触れ合いが児童生徒間に定着してきた。実施しての児童の感想には「朝から元気になれる。」「お世話になった上級生に会える。」「中学校も楽しそう。」など、人とのかかわりに温かさを感じ、よりよく学校生活を送りたいとの意識の高まりがみられた。

(2) 児童の自己存在感を高めるための取組

○いいね運動

児童運営委員の発案で、6月に第1回、11月に第2回のいいね運動を行った。児童に3枚のいいねカードを配布し、自学級の児童のいいところや他の学級に児童のいいところをいいねカード（6月は葉、11月は実）に書き、学級のいいねポストに投函した。児童運営委員がいいねの木にカード貼り付けて、各学年のベストいいねを全校児童の前で発表した。「〇〇さんのいいね 勉強を分かりやすく教えてくれてありがとう。△△より」「□□さんのいいね ひとりであそんでいたら、あそびにさそって



【ベストいいねを発表する児童運営委員】

くれた。◇◇より」など、たくさんの児童のいいねカードが、いいねの木を満たした。発表された児童や、いいところを誉められた児童はうれしそうな表情を見せていた。（2月に第3回を実施予定）

(3) 児童相互に共感的な人間関係を育成するための取組

○サイコロトーク（第2回いじめ防止集会）

第2回いじめ防止集会では、縦割り班による、サイコロトークを行った。テーマを「〇〇のいいところ」として、出たサイコロの目のいいところを順番に紹介した。「わたしのいいところは、がんばり屋さんところです。」「はんちょうさんのいいところは、いつもあかるくやさしくしてくれます。」「担当の〇〇先生のいいところは、いつも相談にのってくるところです。」「四小のいいところは、みんなで仲良くランチルームで給食を食べるところです。」などが発表された。時間いっぱいまで、たくさんのいいところが発表され、笑顔と拍手の絶えないサイコロトークとなった。



【縦割り班でのサイコロトーク】

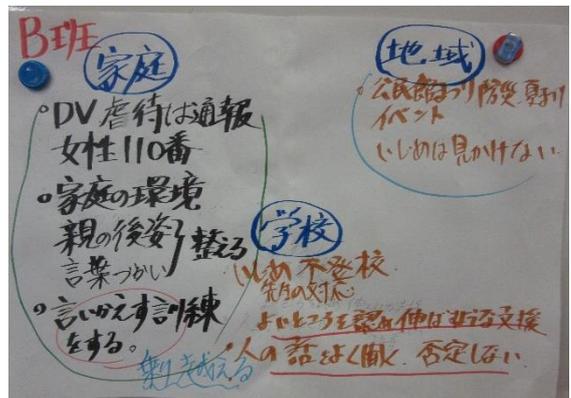
(4) 家庭や地域社会との連携・協働による取組

○第3回学校運営協議会（熟議テーマ：「学校・家庭・地域でできるいじめ防止対策」について）

はじめに、学校からいじめ問題に関わる児童の実態や第1回学校評価の結果・改善策を説明した。次に、学校運営委員が3つの班に別れ、いじめ防止の方法を付箋に書いて整理したり、直接アイデアを出し合ったりしながら模造紙にまとめた。最後に、各班の考えを発表し合い、全体で共有することができた。共有の場面では、①家庭では「親子で良い言葉遣いをする。」「言い返し方（対応の仕方）を練習する。」②地域では「困っている子がいたら元気づけてやる。」「いろいろな人と関わるように納涼祭や公民館祭りなどで声掛け運動を行う。」③学校では「いじめから不登校になることもあるので、先生の親身な対応が大切」「中学校から小学校へ、小学校から幼稚園へのいじめ防止集会を計画する。」④全体では「アサーションをみんなが学ぶ」「大人も子どももお互いを理解しようと努力する。」など、それぞれの経験や考え、立場から活発な熟議を行うことができた。熟議により出された意見は、コミュニティ・スクールだより11月号で保護者や地域に紹介し、地域全体への啓発に努めた。



【熟議をする学校運営委員のみなさん】



【B班の模造紙へのまとめ】

3 成果と課題

(1) 成果

- ・児童運営委員が中心となっていじめ防止についてはたらきかけたことで、全児童が主体的にいじめ防止に向けたさまざまな活動を行うことができた。
- ・縦割り班のサイコロトークでは、児童一人一人が、自己有用感や自己肯定感を感じることができた。
- ・学校運営協議会の中で、学校・家庭・地域でできるいじめ防止対策について話し合うことができた。

(2) 課題

- ・今後も、児童の主体的ないじめ防止活動を推進するために、児童運営委員や学級での話し合いを基にしたいじめ防止活動の計画・運営をしていく必要がある。